

Japanese Translation of T32C Brochure by JA3AER

Five Star DXers Association (FSDXA)は、今回、太平洋の中心にあるクリスマス島で、その5回目の主要なDXペディションを発表することを誇りに思います。もう一度、150,000 QSO以上の目標に向かって努力します。遠隔地であり、不確実な太陽黒点の新サイクルの間という条件のもとに、3週間半の運用が4回の週末を含めて計画されています。

最高15局が24時間連続で運用します。アマチュア無線活動が盛んになる、HFの電波伝播の最適な時期である10月が選ばれました。

目的

我々は多くの目的を持っています、しかし主要な目的は、本格的なDXサーが新しいバンドスロットでのQSOを完成させる間に、控えめな局であっても、世界中のDXサーに、この遠隔地のDXCCのエントリーと少なくとも1回はQSOして頂くことです。チームはヨーロッパと米国東海岸に焦点を合わせ、特別の努力をするでしょう。それは双方向のウェブサイトを活用するなど、最高水準の運営目指すでしょう。

我々は40,000のユニークな局とのQSOを試みるでしょう。これは本当のチャレンジであるでしょう。英国に関して言えば、英国の特に厳しいアンテナ建設制限を心に留めながら、太平洋の特別な位置から、1,000から2,000のユニークな局とのQSOに挑戦を試みるでしょう。ヨーロッパへのオープニングは短いでしょうから、できるときはいつでも、これらのオープニング(ショートパスとロングパス)を利用して、非常に統制のとれた運用をするでしょう。

クリスマス島

なぜKiritimatiですか？ クラブログが東キリバス(Kiritimati) T32がヨーロッパのオペレーターにとっての第36番目に最も欲せられるDXCCエントリーと、世界から最も欲せられる第61番目であることを示しています。それはLFバンドではさらに多くの人達が求めているでしょう。

2010年のDXマガジンの最も求められる調査で、東キリバスは次のような結果でした。

- ・世界的な順位 - Mixed Mode - 78位 (2009 - 91位)
- ・ヨーロッパの順位 - Mixed Mode - 37位 (2009 - 47位)

Kiritimati あるいはクリスマス島は北のライン諸島の太平洋環礁で、キリバス共和国の一部です。それはインド洋にある同じ名前の島(VK9/X)とは別の島です。

クリスマス島はシドニーから6,700km(4,200マイル)、サンフランシスコから5,300km(3,330マイル)の赤道の北232km(144マイル)に横たわっている。

ます。それは世界で最も進んだ時間帯 UTC + 14 にあります、そしてクリスマス島は地球上で毎年最初に新年を迎える場所です。

島全体は野生生物保護区域です、そして特に影響を受けやすい5つのエリアへのアクセスは限定されています。島は多分1950年代後期の英国によって、そして1962年に合衆国によって、クリスマス島の周りの地域で行なわれた核実験でよく知られています。これらの核実験の間、島民は避難させられませんでした。島の滑走路はスペースシャトルのためにバックアップとして手入れが行き届いた状態に保たれました。そしてホノルルからの定期のフライトがあります。最近の主な収入源は塩水礁湖での魚釣りなどの観光事業です。

「Kiritimati」という名前は、英語の「クリスマス」のギルバート語です、ここでは「ti」の組み合わせは英語の「s」と発音されます。同様にキリバス(Kiribati)はKがGに取って代わり、RがLに取って代わっている、ギルバート(Gilberts)のギルバート語訳です。

我々の戦略

FSDXAは世界的に要求度の高いトップ100のエンティティで運用し、トップDXサーにだけではなく、珍しいDXCCエンティティとの交信を望むが、アンテナや設備が十分でなく、それがなかなか出来ない多くのDXサー(多分75,000かそれ以上)を満足させるために、実質的な方策でそうするという評判を確立しました。多くのこれらの局が弱い信号と混信のために、珍しいDXCC局を聞くことが出来ません。また、多くのDXペディションが短い期間の運用であって、2つの週末さえカバーしていません。

我々の戦略は、可能な限り多くのバンドで最大の電力で運用することです。全てのバンドで同時に運用することによって、不幸にも近年のDXペディションで問題になった故意の妨害の可能性を減らすことを目指します。

遠隔地という条件の中で、世界のより遠い地域から期待される低い発射角に対応するため、海に近いところでモノバンド八木にバーチカル・ダイポール・アレイで補うでしょう。我々は4つの完全な週末を含めて、160mから6mまでの全てのバンド上で、SSB、CWそしてRTTYで4週間運用する予定です。主モードに対する需要が特定のバンドで十分満たされたと感じられれば、FMやPSK31など他のモードでの運用も考慮します。

装置とアンテナ

我々は最高15局を運用する計画しています。160mから6mの全てのバンドに専用の局と、80m、40m、20mの他、実行可能なバンドで2番目の局を持ち、CWとSSBを同時に運用することができるようにするでしょう。もう一度、Yaesuはトランシーバーの新機種FT-5000と、実績のあるリニ

アーアンプのVL-1000を提供してくれるでしょう。

アンテナの計画は次の通りです：

- 160m : トップローディング付のTitanex
- 80m : 2組のフェースド・バーチカル
- 40m : 2組のフォー・スクエア・アレイ
- 30m : フォー・スクエア・アレイとシングル・バーチカル
- 20m : 1つの3エレメントと1つのバーチカル・ダイポール・アレイ(VDA-寄生的なリフレクタを持っているバーチカル・ダイポール)
- 17m : 1の4エレメントと1つの特別な4エレメントのボードサイド・VDA
- 15m : 1の4エレメントと1つのVDA
- 12m : 1の4エレメントと1つのVDA
- 10m : 1の6エレメント、1の3エレメントと1つのVDA
- 6m : EMEの能力のある7エレメント

我々はStarLogコンピュータシステムを使うでしょう。ログは人工衛星電話によって毎日アップロードされるでしょう。島には限られた電力しかありませんから、我々は発電機と燃料を持って行く必要があるでしょう。

ウェブサイト www.t32c.com

T32のウェブサイトは新しい技術を使って開発されました。過去の経験に基づいて、我々が島にいる間に10,000,000本以上のヒットがあると予想しています。我々の旅行の前後を加えるともっと多くのヒットがあるでしょう。ウェブサイトはDX社会から好意的なコメントを受けられる、革新的でエキサイティングな特徴を含んでいます。ウェブサイトはすでに始動されました。いくつかの新考案がDXペディションの直前に公表されるでしょう。

スポンサー

我々と素晴らしい関係を続けるYaesuが、既にT32Cの世界的なスポンサーであることに同意してくれたことに大いに喜んでいます。我々は1998年にスプラトリー諸島で9M0CのDXペディション以来、全てのDXペディションでYaesuの機器を使用してきました。

英国のアマチュア無線の代表的な販売店である、Martin Lynch and SonsとNevada Radioが、再び我々のDXペディションのスポンサーになってくれています。我々はこれらの進行中のサポートに非常に感謝しています。

しかしながら、このような大きなプロジェクトでは、他にも多くのものが必要となります。これに皆さんも参加して頂きたいとおもいます。このような大規模なオペレーションに必要な、大量の通信機器、アンテナや他の付属機器などを、ヨーロッパからクリスマス島まで輸送する最も経済的な方法は

20フィートのコンテナに入れて、フィジーの首都スバを経由してクリスマス島に運ぶことです。それでも高い費用が掛かりますので、FSDXAは世界のDXクラブ、基金、会社、協会、連合、個人からスポンサーを求めています。

クリスマス島は遠隔地ですから、ヨーロッパ、北アメリカ、日本からホノルル経由での航空運賃はかなりの金額です。DXペディションの全てのメンバーは相当な輸送経費の支払に加えて、島での宿泊料と食費の他、自分の交通費を支払っています。

スポンサーの寄付金はヨーロッパからクリスマス島まで送る通信機器、アンテナ、同軸ケーブル、コンピュータと付属装置等の輸送経費と保険料、税関や法律上のペーパーワーク経費等に使われるでしょう。

スポンサーになる方法

個人スポンサー

あなたは我々の寄付ページを通して個人の寄付をすることによってDXペディションに協力することができます。あなたのコールサインがT32CのQSLカードに現われるために、最低30ポンド、または45ドル、または40ユーロあるいは4,000円が必要です。10ポンド(15ドル、12ユーロ、1,500円)以上を寄付している人たちにはDXペディションのすぐ後に直接QSLカードが送られるでしょう。カードを請求する必要がないでしょう。寄付はPayPalによっても受け付けます。すべての個人のスポンサーは我々のウェブサイトのスポンサーページに掲載されるでしょう。

企業のスポンサー

企業のスポンサーがDXペディションに主要な貢献をします。現金のほかにこれは装置、サービスあるいは資材を含むことができます。すべての企業のスポンサーは、このサイトのページから企業のウェブサイトへのリンクを張るでしょう。加えてQSLカード上や、DXペディションのプレゼンテーションや記事の中で紹介されるでしょう。もしあなたが企業のスポンサーになることを望むなら、電子メールでG3NUG, Neville Cheadleさん (g3nug@btinternet.com) に連絡を取ってください。

クラブスポンサー

ラジオクラブとDXクラブにT32CのDXペディションの財政的な支援をお願いします。クラブの名前がQSLカード上や、DXペディションのプレゼンテーションや記事の中で紹介されるでしょう。可能である場合は、我々のウェブページにロゴを掲載し、クラブのウェブサイトにはリンクを張ります。もしあなたのクラブがスポンサーになることを望むなら、電子メールでG3NUG, Neville Cheadleさん (g3nug@btinternet.com) に連絡を取ってください。T32CのQSLカード上や、DXペディションのプレゼンテーションや記事

の中に限定されたスペースがあります。あなたのクラブがここに掲載されるためには、少なくとも100ポンド(120ユーロ、15,000円または150ドル)が必要です。

寄付

DXペディションを運営するのは非常に高価なビジネスです、このオペレーションのコストに寄付をお願いします。我々は金額にかかわらず、あなたがすることができるどんな寄付にでも感謝しています。

郵便での寄付

スターリング・ポンド、USDドル、日本円、ユーロあるいは他の通貨で郵便による寄付が出来ます。

銀行相互の電子送金(EFT)による寄付

EFTによる寄付は非常に歓迎されています。特に英国の寄贈者のために効率的です。もしあなたがEFTを使うなら、FSDXAは経費が掛からず、我々はあなたの寄付の全額を得ることができます。

PayPal 寄付

我々はPayPalによる寄付を歓迎しますが、英国の寄贈者にはEFTを使うことを推奨します。「Payment For:」の欄にはコールサインを入れて下さい。これは我々のウェブサイトのスポンサーリストにあなたのコールサインを表示するためです。

チーム

既に13DXCCエンティティから、多くのアマチュア無線家がT32Cに参加するための登録をしました。それは全期間を通じてもあれば限られた期間の参加もあります。しかし現場には常に30人のオペレーターがいるでしょう。オペレーターの数は、バンドが開いているときはいつでも、全てのステーションに人がいることを前提に決められました。これらのオペレーターの多くは以前も我々と一緒でした。メンバー皆、オペレーション(通常、複数のモードでの運用や、しばしばコンテストの経験など)以外に必要な技能の経験を持っています。例えば、我々は2人の医療の専門家、アンテナ、RF、ソフトウェアのスペシャリスト、その他重要な運用の装備や後方からの運営サポートなど広範囲の技能を持っているでしょう。

この記事を書いている段階で、チームは次のオペレーターを含めて40人を期待しています。

Neville G3NUG (Team Leader)

Chris G3SVL (Co-Leader)

John G3WGV (Co-Leader)

Michael DG1CMZ

Falk DK7YY

Paul EI5DI
Dave EI9FBB
Gerard F2JD
Ian F5VKT/G3YBY
Michel FM5CD
Vincent G0LMX
Tony G0OPB
Nobby G0VJG
Fred G3SVK
Laurie G3UML
David G3UNA
Gordon G3USR
Dave G3WGN
Mike G3WPH
Don G3XTT
Mark G4AXX
John G4DRS
Nick G4FAL
Mike G4IUF
Tony G4LDL
Justin G4TSH
Michael G7VJR
Clive GM3POI
Bob GU4YOX
Kazu JA1RJU
Dave K4SV
Bob MD0CCE
Bill N2WB
Arnie N6HC
Bob N6OX
Ronald PA3EWP
Maury W3EF
Paul WF5T

Michael DG1CMZ、彼はT32Cチームに参加する、助成金付の若いアマチュア無線家の競技の勝者です。我々はこの助成金を提供したことに対して匿名のスポンサーに感謝します。

FSDXA

FSDXAは1998年に9M0CのDXペディションを組織したチームメンバーによって創設されました。7人の創設者メンバーは2001年に同じく記録を破るD68C、コモロ諸島DXペディションを組織化しました(168,000以上のコンタクト、前のDXペディションの記録から70%増加)。このチームはその後2004年の3B9CロドリゲスDXペディションと2007年の3B7C

セント・ブランドンとを組織化しました。セント・ブランドンは、我々が医療や運営のサポート必要とし、発電機の電力に頼らねばならなかった最初的时候であって、その経験がクリスマス島において生かされるでしょう。

我々にはT32Cのコールサインを割り当てられました。コールサインの「C」は、FSDXAを組織したクラブ「CDXC」からきています。それは以前に成功したオペレーション、9M0C（スプラトリー諸島、1998）、D68C（コモロ諸島、2001）、3B9C（ロドリゲス、2004）それに3B7C（セント・ブランドン、2007）と同じグループであることを思い出していただけるためです。

関連ウェブサイト:

T32C : www.t32c.com

CDXC : www.cdxc.org.uk

FSDXAの前のDXペディション: www.fsdxa.com